

学期 / Semester	2020年度 / Academic Year 3クオ ーター / Third Quarter	曜日・校時 / Day・Period	木 / Thu 3, 木 / Thu 4
開講期間 / Course duration	2020/09/28 ~ 2020/11/19		
必修選択 / Required / Elective	選択 / elective	単位数(一般/編入/留学) / Credits (General / Transfer / Overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	20200587048701	科目番号 / Course code	05870487
科目ナンバリングコード / Numbering code	GEMB 15281_005		
授業科目名 / Course title	a13細胞生命を哲学する / Intensive Thinking of Life of the Cell		
編集担当教員 / Instructor in charge of the course syllabus	小路 武彦 / Koji Takehiko, 林 日出喜 / Hayashi Hideki, 柴田 恭明 / Shibata Yasuaki, 池松 和哉 / Ikematu Kazuya, 田中 邦彦 / Tanaka Kunihiko		
授業担当教員名 (科目責任者) / Instructor in charge of the course	小路 武彦 / Koji Takehiko		
授業担当教員名 (オムニバス科目等) / Instructor(s)	小路 武彦 / Koji Takehiko, 林 日出喜 / Hayashi Hideki, 柴田 恭明 / Shibata Yasuaki, 田中 邦彦 / Tanaka Kunihiko		
科目分類 / Course Category	全学モジュール 科目		
対象年次 / Intended year	2, 3, 4	講義形態 / Course style	講義 / Lecture
教室 / Class room	教養教育A棟24 / RoomA-24		
対象学生 (クラス等) / Intended year (class)	多・教・経・薬・水		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	(小路) tkoji nagasaki-u.ac.jp (メールを送信する際は を@に変更して送信してください) (柴田) siva nagasaki-u.ac.jp (メールを送信する際は を@に変更して送信してください) (田中) kunny-ta nagasaki-u.ac.jp (メールを送信する際は を@に変更して送信してください) (林) hhayashi nagasaki-u.ac.jp (メールを送信する際は を@に変更して送信してください)		
担当教員研究室/Office	(小路) 医歯薬学総合研究科 組織細胞生物学分野 (柴田) 医歯薬学総合研究科 組織細胞生物学分野 (田中) 医学部 医学科 先端医学センター (林) 医学部研究高度化支援室 (MEDURA)		
担当教員TEL/Tel	(小路) 819-7025 (柴田) 819-7026 (田中) 819-7987 (林) 819-8514		
担当教員オフィスアワー/Office hours	(小路) 木曜 16:30 ~ 18:00 (柴田) 木曜 16:30 ~ 18:00 (田中) 水曜 16:30 ~ 18:00 (林) 木曜 16:30 ~ 18:00		
授業の概要及び位置づけ/Course overview	病気を始めとする我々の体で起こっている様々な現象は、全て生命の最小単位である細胞から起因する。その細胞について、正常構造と機能及びその振る舞いを理解し、続いて制御不能となった細胞、即ち癌細胞の異常さを細胞レベル、分子レベルから多面的に討議しその本質を理解する。更に、多数且つ多種類の細胞からなる組織に於いて一つの細胞が他の細胞を如何に認識し、相互作用し、適切な増殖と分化を経て、そして死を迎えていくのか、その背景にある分子機構に迫り、最終的に自他の認識能力に依存して感染防御や癌細胞の除去に働く免疫機構の理解に至り、生命の不可思議さに思いを馳せることを目的とする。		
授業到達目標/Course goals	<ul style="list-style-type: none"> ・細胞の基本的構造と機能及びその地球上に於ける普遍性を説明できる。() ・癌細胞の異常さを細胞レベルや分子レベルで説明できる。() ・細胞間の相互作用から集団の中での振る舞いや死までの過程を説明できる。() ・自他の認識能力に基づく免疫機構の基本的な分子基盤と役割を説明できる。() ・自己恒常性維持における免疫系の仕組みについて概要を説明できる。() ・細胞の生命論理と社会性についての自分の考えを説明できる。() 		
知識・技能以外に、この授業を通して身につけて欲しい力 (1つ以上3つまで) /Abilities other than knowledge and skills acquired mainly through the course (pick 1 to 3)	主体性 / Autonomy 汎用的能力 / Generic Competence 倫理観 / Ethics 多様性の理解 / Understanding Diversity 協働性 / Cooperativeness 考えをやり取りする力 / Ability to exchange ideas 国際・地域社会への関心 / Interest in international / local society		
学生の思考を活性化させるための授業手法 /Teaching method to stimulate students' thinking	A. 授業内容の理解度を確認したり自分で考えさせたりする活動 / Activities to check the degree of comprehension of the contents to the lesson or to think over B. 多角的に考えるために他者と関わる活動 / Activities involving others to think from various perspectives C. 技能修得のために実践する活動 / Activities to practice for acquiring skills D. 問題解決のために知識を総合的に活用する活動 / Activities that comprehensively utilize knowledge to solve problems E. 上記以外の学生の思考の活性化を促す授業手法 / Teaching methods to stimulate students' thinking other than the above F. 教員からの講義のみで構成される / It consists only of lectures from teachers		
成績評価の方法・基準等/Method of evaluation	授業中の積極度、課題レポートや小テスト：40% 終了時提出のポートフォリオ、レポートまたは筆記試験：60%		
各回の授業内容・授業方法 (学習指導方法) /Course contents of each lesson	詳細は授業計画詳細を参照		

事前、事後学習の内容/Preparation & Review	<p>小路： (事前学習) 高校レベルの生物学を各自復習し、毎回の課題について備える。(2h) (事後学習) 毎週の課題に対する回答を作成し、発表できるようにすること。(2h)</p> <p>柴田： (事前学習) LACS の資料を熟読し理解することが必要である。(1h) (事後学習) 専門書を熟読した上での仮説の検証及びレポート作成が求められる。(3h)</p> <p>田中： (事前学習) 「生命」「生物」「細胞」「癌」「死」について、その定義や自分なりに興味をもつことについて理解を深めておいて下さい。(2h) (事後学習) その日学習したことが社会においてどのような意味を持つか、図書、メディア、インターネットなどを通じて幅広く関連付けを行い理解を深めて下さい。(2h)</p> <p>林： (事前学習) 高校レベルの生物学を各自復習し、LACSにアップしたスライド、動画を視聴し、授業に備える。(2h) (事後学習) 毎週の課題に対する回答を作成し、LACS掲示板でのコメントを求めます。(2h)</p>
キーワード/Keywords	小路：自己複製、進化、細胞膜、細胞質、核、細胞分裂 柴田：免疫、細胞外基質、サイトカイン、ホルモン 田中：癌細胞、転移、癌治療、人間、社会 林：がん、細胞増殖、細胞死、アポトーシス
教科書・教材・参考書/Materials	小路：標準細胞生物学 第2版(石川春律監修)医学書院、2009年 柴田：指定なし(配付資料を用いる) 田中：指定なし(LACS資料を用いる) 林：がんの生物学 原書第2版(ワインバーグ著、武藤誠・青木正博訳)南江堂、2017年
受講要件(履修条件)/Prerequisites	事前学習・情報収集を十分に行い、全ての授業に出席し、グループ活動にも積極的に参画できる学生であること。適切なモジュール科目Iに合格していること。
アクセシビリティ/Accessibility (for students with disabilities)	長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員(上記連絡先参照)または「アシスト広場」(障がい学生支援室)にご相談下さい。 アシスト広場(障がい学生支援室)連絡先 (Tel) 095-819-2006 (Fax) 095-819-2948 (E-MAIL) support@ml.nagasaki-u.ac.jp
備考(URL)/Remarks (URL)	
学生へのメッセージ/Message for students	授業に真面目に出席し、将来責任ある社会人として能力を発揮できるよう、正確な知識を蓄積し、更にそれをうまく使いこなして新たな未知の課題解決に生かせるような思考法を習得して欲しい。
実務経験のある教員による授業科目であるか(Y/N)/Instructor(s) with practical experience (Y / N)	Y
実務家教員名/実務経験内容/実務経験に基づく教育内容(実務経験のある教員による授業科目のみ使用)/Name / Details of practical experience / Contents of course	小路 武彦/所属教室において専門分野による実務経験を有している。/実務経験に基づき、本授業科目に必要な基本的知識、技能を講義にて教授する。/ 柴田 恭明/医師としての実務経験を有している。/実務経験に基づき、本授業科目に必要な基本的知識、技能を講義、実習等により教授する。/ 田中 邦彦/医師としての実務経験を有している。/各職種での実務経験に基づき、本授業科目に必要な基本的知識、技能を講義、実習等により教授する。/
授業計画詳細 / Course Schedule	
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents
第1回 (10/ 1、III)	細胞の出現と進化(生命の連続性) (担当:小路)
第2回 (10/ 1、IV)	生命空間の構造:細胞膜と細胞内小器官 (担当:小路)
第3回 (10/ 8、III)	生命空間の維持:核と遺伝子発現 (担当:小路)
第4回 (10/ 8、IV)	細胞分裂の意味論と総合討論 (担当:小路)
第5回 (10/ 15、III)	細胞の自己認識 (担当:柴田)
第6回 (10/ 15、IV)	細胞の近隣環境と細胞間の相互作用 (担当:柴田)
第7回 (10/ 22、III)	討論、資料検索 (担当:柴田)
第8回 (10/ 22、IV)	発表会 (担当:柴田)
第9回 (10/ 29、III)	癌細胞と人間の哲学 (担当:田中)
第10回 (10/ 29、IV)	癌細胞と人間の哲学 (担当:田中)
第11回 (11/ 5、III)	癌と社会の哲学 (担当:田中)
第12回 (11/ 5、IV)	癌と社会の哲学 (担当:田中)
第13回 (11/ 12、III)	がん遺伝子とがん抑制遺伝子(意味論から) (担当:林)
第14回 (11/ 12、IV)	細胞増殖と細胞周期(分子機構を中心に) (担当:林)
第15回 (11/ 19、III)	アポトーシス(細胞老化や様々な死に方も含めて) (担当:林)

学期 / Semester	2020年度 / Academic Year 1クオ ーター / First Quarter	曜日・校時 / Day・Period	木 / Thu 3, 木 / Thu 4
開講期間 / Course duration	2020/04/08 ~ 2020/06/04		
必修選択 / Required / Elective	選択 / elective	単位数(一般/編入/留学) / Credits (General / Transfer / Overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	20200587049101	科目番号 / Course code	05870491
科目ナンバリングコード / Numbering code	GEMB 15291_005		
授業科目名 / Course title	a13社会生命を哲学する / Consideration of Social Life Science		
編集担当教員 / Instructor in charge of the course syllabus	梅原 敬弘 / Umehara Takahiro, 池松 和哉 / Ikematu Kazuya		
授業担当教員名 (科目責任者) / Instructor in charge of the course	梅原 敬弘 / Umehara Takahiro		
授業担当教員名 (オムニバス科目等) / Instructor(s)	梅原 敬弘 / Umehara Takahiro, 池松 和哉 / Ikematu Kazuya		
科目分類 / Course Category	全学モジュール 科目		
対象年次 / Intended year	2, 3, 4	講義形態 / Course style	講義 / Lecture
教室 / Class room	教養教育A棟22 / RoomA-22		
対象学生 (クラス等) / Intended year (class)	多・教・経・薬・水		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	umehara_nagasaki-u.ac.jp (メールを送信する際は を@に変更して送信してください)		
担当教員研究室/Office	医学部基礎研究棟 6階法医学教室		
担当教員TEL/Tel	095-819-7076		
担当教員オフィスアワー/Office hours	水曜日16:00 ~ 18:00		
授業の概要及び位置づけ/Course overview	人間はいつか死を迎えるが、その最期は様々である。現代社会においてヒトの死は、自然死や病死をはじめ、交通事故や他殺、薬物中毒、虐待、ストレス社会における過労死、あるいは隣家との接触の希薄化などによる都市部での孤独死、また自らの命を絶つ自殺など多様化している。本講義では、死、死に至る過程、様々な死について医学的側面から各講師が講義し、社会的側面から個人が貢献できることを考えるための素材を提供する。「社会からの逸脱」であるヒトの死について学ぶことで、「生命と社会」という普遍的な命題について哲学する。		
授業到達目標/Course goals	1. 社会的側面から解剖の意義について説明できる。 2. ヒトの様々な死、そしてその意義を説明できる。 3. 社会における個人の役割について考えることができる。		
知識・技能以外に、この授業を通して身につけて欲しい力 (1つ以上3つまで) /Abilities other than knowledge and skills acquired mainly through the course (pick 1 to 3)	主体性 / Autonomy 汎用的能力 / Generic Competence 倫理観 / Ethics 多様性の理解 / Understanding Diversity 協働性 / Cooperativeness 考えをやり取りする力 / Ability to exchange ideas 国際・地域社会への関心 / Interest in international / local society		
学生の思考を活性化させるための授業手法 /Teaching method to stimulate students' thinking	A. 授業内容の理解度を確認したり自分で考えさせたりする活動 / Activities to check the degree of comprehension of the contents to the lesson or to think over B. 多角的に考えるために他者と関わる活動 / Activities involving others to think from various perspectives C. 技能修得のために実践する活動 / Activities to practice for acquiring skills D. 問題解決のために知識を総合的に活用する活動 / Activities that comprehensively utilize knowledge to solve problems E. 上記以外の学生の思考の活性化を促す授業手法 / Teaching methods to stimulate students' thinking other than the above F. 教員からの講義のみで構成される / It consists only of lectures from teachers		
成績評価の方法・基準等/Method of evaluation	討論への貢献度、課題レポート：40% 終了時提出のポートフォリオ、レポート：60%		
各回の授業内容・授業方法 (学習指導方法) /Course contents of each lesson	詳細は授業計画詳細を参照		
事前、事後学習の内容/Preparation & Review	毎週の課題に対する回答を作成し、発表できる様にする (学習時間2時間程度)。 毎週の最終課題に対するレポート作成を行う (学習時間2時間程度)。		
キーワード/Keywords			
教科書・教材・参考書/Materials	学生のための法医学 (南山堂)		
受講要件 (履修条件) /Prerequisites			
アクセシビリティ/Accessibility (for students with disabilities)			
備考 (URL) /Remarks (URL)			
学生へのメッセージ/Message for students	人は誰しも精神的に健康な状態の時は、前向きに社会と関係を持つことができますが、そうでない時は社会との関係が希薄になり、つながりを断ち切りたいと思うようになります。そこで、医学的 (法医学的) 観点からヒトの死について学ぶことで、「生命」についての自分なりの価値観を確立し、社会における個人としての役割等について考えていきましょう。		

実務経験のある教員による授業科目であるか (Y/N)/Instructor(s) with practical experience (Y / N)	N
実務家教員名 / 実務経験内容 / 実務経験に基づ く教育内容 (実務経験のある教員による授業科 目のみ使用) / Name / Details of practical experience / Contents of course	
授業計画詳細 / Course Schedule	
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents
第1回	社会的側面から解剖の意義について考える。
第2回	社会的側面から解剖の意義について考える。
第3回	自殺について考える。
第4回	自殺について考える。
第5回	アルコールについて考える。
第6回	アルコールについて考える。
第7回	薬毒物について考える。
第8回	薬毒物について考える。
第9回	虐待について考える。
第10回	虐待について考える。
第11回	嬰兒殺について考える。
第12回	嬰兒殺について考える。
第13回	個人識別について考える。
第14回	個人識別について考える。
第15回	総括。

学期 / Semester	2020年度 / Academic Year 4クオ ーター / Fourth Quarter	曜日・校時 / Day・Period	木 / Thu 3, 木 / Thu 4
開講期間 / Course duration	2020/11/25 ~ 2021/01/28		
必修選択 / Required / Elective	選択 / elective	単位数(一般/編入/留学) / Credits (General / Transfer / Overseas)	2.0 / 2.0
時間割コード / Time schedule code	20200587056901	科目番号 / Course code	05870569
科目ナンバリングコード / Numbering code	GEMB 15521_005		
授業科目名 / Course title	a13地域社会に生きる個体生命を哲学するCOC / Biopsychosocial Approach to Life in Community		
編集担当教員 / Instructor in charge of the course syllabus	森 亮一 / Mori Riyouti, 池松 和哉 / Ikematu Kazuya, 林 洋子 / Hayashi Hiroko, 朴 盛俊 / Paku Senjiyun, 下川 功 / Isao Shimokawa		
授業担当教員名 (科目責任者) / Instructor in charge of the course	森 亮一 / Mori Riyouti		
授業担当教員名 (オムニバス科目等) / Instructor(s)	森 亮一 / Mori Riyouti, 林 洋子 / Hayashi Hiroko, 朴 盛俊 / Paku Senjiyun, 下川 功 / Isao Shimokawa		
科目分類 / Course Category	全学モジュール 科目		
対象年次 / Intended year	1, 2, 3, 4	講義形態 / Course style	講義 / Lecture
教室 / Class room	教養教育A棟24 / RoomA-24		
対象学生 (クラス等) / Intended year (class)	多・教・経・薬・水		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	森 : ryoichi nagasaki-u.ac.jp 林 : hayashih nagasaki-u.ac.jp 朴 : psj1026 nagasaki-u.ac.jp (メールを送信する際は を@に変更して送信してください)		
担当教員研究室/Office	医学部 医学科 病理学		
担当教員TEL/Tel	095-819-7051		
担当教員オフィスアワー/Office hours	月・水曜日 17:00 ~ 18:00 (電話で所在を確認すること)		
授業の概要及び位置づけ/Course overview	私達は、地域社会を構成する最小単位である個人として社会的役割を担っている。地域社会は、地理的・経済的状況によって多様性を呈しており、その多様性に応答すべく、個人としての順応し社会的責務をはたして生活を営んでいる。しかしながら、それらに関係し希薄が生じた際は、自身を見つめ直し、時には新たな環境を目指し、新しい人生の方向性を見出すきっかけとなる。本授業では、個人における地域社会における役割、地域社会との希薄関係の理由、新たな人生設計の差異について、生命医科学的に深く学ぶ。そして、個体生命としての私達が、地域社会にどのようにして順応、貢献、変革に寄与できるかを哲学する。 細胞単位、遺伝子レベルで解明されている疾病も、個体レベルの症候として表出される表現形は多彩であり、さらにこれが個体へ及ぼす影響となると多面的になる。例えば癌においても、年齢、性別、発生臓器によりその様相は異なり、個体は社会におけるヒトとしてこれを捉えていく必要がある。細胞と社会の接点に生命体として存在する個体生命を哲学することで、科学的な理解を越え哲学的アプローチにより生命観に迫る。		
授業到達目標/Course goals	<ul style="list-style-type: none"> ・社会貢献について説明できるようになる。 ・高齢化社会について説明できるようになる。 ・老化について説明できるようになる。 ・現代の主要病態について説明できるようになる。 ・医学的病態発症と社会生活の変化について考えることができるようになる。 ・地域社会における個人の意識、役割の差異とその実践について考えることができるようになる。 ・高齢化社会における地域社会の役割について考えることができるようになる。 ・病理学を通して、人体の正常と病的状態の基本的事項を学び、説明できるようになる。 ・主要な疾患の病理像を通して、その病態を考えることができるようになる。 ・学んだことについて、グループでディスカッションすることができるようになる。 ・学んだことについて、理論的にまとめ、発表することができるようになる。 		
知識・技能以外に、この授業を通して身につけて欲しい力 (1つ以上3つまで) / Abilities other than knowledge and skills acquired mainly through the course (pick 1 to 3)	主体性 / Autonomy 汎用的能力 / Generic Competence 倫理観 / Ethics 多様性の理解 / Understanding Diversity 協働性 / Cooperativeness 考えをやり取りする力 / Ability to exchange ideas 国際・地域社会への関心 / Interest in international / local society		
学生の思考を活性化させるための授業手法 / Teaching method to stimulate students' thinking	A. 授業内容の理解度を確認したり自分で考えさせたりする活動 / Activities to check the degree of comprehension of the contents to the lesson or to think over B. 多角的に考えるために他者と関わる活動 / Activities involving others to think from various perspectives C. 技能修得のために実践する活動 / Activities to practice for acquiring skills D. 問題解決のために知識を総合的に活用する活動 / Activities that comprehensively utilize knowledge to solve problems E. 上記以外の学生の思考の活性化を促す授業手法 / Teaching methods to stimulate students' thinking other than the above F. 教員からの講義のみで構成される / It consists only of lectures from teachers		

成績評価の方法・基準等/Method of evaluation	3名の教員によるオムニバス形式であり、方法については各教員により異なる。基本的には授業時には配付資料やスライドでの講義・説明であるが、教員によりグループ単位でのテーマ討議と発表会、レポート提出を課す。 出席(15点) + レポート課題(15点) + 内容理解確認ディスカッション(15点) + 授業への取り組み(55点)
各回の授業内容・授業方法(学習指導方法)/Course contents of each lesson	詳細は授業計画詳細を参照
事前、事後学習の内容/Preparation & Review	・予習は特に必要ありませんが、国際的な問題を取り上げる場合がありますので、ニュースや新聞記事などに目を通しておくこと(2h)。 ・授業内容の理解と発表の為にレポート作成を行います。そのレポートをもとにディスカッションを行う事もあります。ディスカッションには積極的に参加すること(2h)。
キーワード/Keywords	遺伝子、がん、健康寿命、生活習慣病、生命医科学一般、病理、老化
教科書・教材・参考書/Materials	・老化の生物学(化学同人) ・はじめの一歩のイラスト病理学(羊土社)
受講要件(履修条件)/Prerequisites	全ての授業に出席できること。講義内容の復習、それに伴う情報収集、そして発表ができること。グループ活動に積極的に参画できること。適切なモジュール科目に合格していること。
アクセシビリティ/Accessibility (for students with disabilities)	長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員(上記連絡先参照)または「アシスト広場」(障がい学生支援室)にご相談下さい。 アシスト広場(障がい学生支援室)連絡先 (TEL) 095-819-2006 (FAX) 095-819-2948 (E-MAIL) support@ml.nagasaki-u.ac.jp
備考(URL)/Remarks (URL)	
学生へのメッセージ/Message for students	健康なときは、密接に社会と関係を持つことができます。しかしながら、健康状態が思わしくないときや高齢者は、社会との関係が希薄となる傾向があります。その希薄のきっかけやその適応等について、生活習慣、発育、病気、老化を中心に、医学的知見から講義を行います。そして、地域社会における個人としての役割等について考えていきたいと思ひます。
実務経験のある教員による授業科目であるか(Y/N)/Instructor(s) with practical experience (Y / N)	Y
実務家教員名/実務経験内容/実務経験に基づく教育内容(実務経験のある教員による授業科目のみ使用)/Name / Details of practical experience / Contents of course	森 亮一/実務経験に基づき、本授業科目に必要な基本的知識、技能を講義、実習等により教授する。/ 林 洋子/病理診断科において医師としての実務経験を有している。/実務経験に基づき、本授業科目に必要な基本的知識、技能を講義、実習等により教授する。/ 朴 盛俊/実務経験に基づき、本授業科目に必要な基本的知識、技能を講義、実習等により教授する。/
授業計画詳細 / Course Schedule	
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents
第1回(11/26、3限)	地域社会の特色(森)
第2回(11/26、4限)	個人が形成する多様な地域社会(森)
第3回(12/3、3限)	高齢化社会(森)
第4回(12/3、4限)	社会生活と健康(森)
第5回(12/10、3限)	発表、討論(森)
第6回(12/10、4限)	医療分野における病理という視点(林)
第7回(12/17、3限)	人体の病理組織像(林)
第8回(12/17、4限)	炎症、生活習慣病、腫瘍の病理(林)
第9回(1/7、3限)	病理解剖例の検討(林)
第10回(1/7、4限)	発表、討論(林)
第11回(1/14、3限)	病気と社会生活の関係(朴)
第12回(1/14、4限)	生活環境変化(朴)
第13回(1/21、3限)	社会的適応(朴)
第14回(1/21、4限)	体調管理の科学(朴)
第15回(2/4、3限)	発表、討論(朴)